

看護学教育研究倫理検討委員会

「看護学教育研究倫理検討委員会」

1. 構成員

1) 委員

小泉美佐子（委員長：群馬大学）、櫻庭繁（京都大学）、横尾京子（広島大学）、
國生拓子（広島大学）、大島弓子（神奈川県立保健福祉大学）、
長谷川雅美（金沢大学）、前田ひとみ（熊本大学）、松田たみ子（茨城県立医療大学）
小西恵美子（佐久大学）

2) 協力者

坂入和也（群馬大学）

2. 趣旨

看護系大学における看護学教育および研究の倫理に関する基本的な考え方と教育方法について検討する。また、倫理に係る教育の実態調査を行い、教育改善に役立てる基礎資料を得る。

3. 活動経過

1) 「臨地実習における倫理的課題と教育について」ワークショップの開催

目的

臨地実習において遭遇する倫理的問題・課題について共有し、それらの対応について検討する。また、受け持ち患者（利用者）の事例から倫理的問題を学習させる指導の在り方について検討する。

開催期日・場所

〈西日本ブロック〉

- ① 平成 21 年 8 月 28 日（金）九州大学総合研究棟（福岡市）19 校参加
- ② 平成 21 年 8 月 30 日（日）同上 11 校参加

〈東日本ブロック〉

- ③ 平成 21 年 8 月 31 日（月）かながわ県民活動サポートセンター（横浜市）27 校参加
- ④ 平成 21 年 9 月 4 日（金）台東区生涯学習センター（東京都台東区）22 校参加

4 日間を通して延べ 79 校が参加

2) 委員会開催

ワークショップ開催に向けて委員会を2回開催

第1回委員会開催 平成21年6月7日

第2回委員会開催 平成21年7月26日

ワークショップの総括

第3回委員会開催 平成21年10月25日

延べ79校の参加があり、テーマへの関心の高さがうかがえた。参加者のアンケートから、他大学の取り組みを知ることが出来た、倫理的視点に立った教育の在り方について意見交換ができてよかったという意見が多くあった。これらから、ワークショップの意義はあったと評価する。

4. 今後の課題

本協議会の法人化に伴い各種委員会の見直しをする計画がある。今年度行った倫理に関する教育活動はFD委員会に移してよいかもしれない。平成19年度に実施した学内演習に関する調査と今年度の臨地実習に関するワークショップを実施して、人を対象とする看護技術教育において様々な倫理的課題・問題があることが明らかとなった。看護技術教育に特化した倫理指針の作成、臨地実習指導要項に盛り込む「倫理的対応」の作成、「倫理的問題をもった事例検討のすすめ方」の作成などが課題としてあるという見解に至った。

来年度は、本委員会が発足して以来の活動を総括して本委員会の趣旨の見直しを行い、日本看護系大学協議会の各種委員会の見直しと連動して本委員会のあり方を抜本的に検討する計画である。

5. 資料（以下はワークショップの討議資料として冊子にした）

平成 21 年度日本看護系大学協議会

看護学教育研究倫理検討委員会主催

ワークショップ

「臨地実習における倫理的課題と教育について」

プ ロ グ ラ ム

12 : 30～ 受付

13 : 00～13 : 25 ワークショップ開始
あいさつ
オリエンテーション

13 : 30～15 : 30 グループ討議
課題 1 学生が提供する看護の安全性と看護技術の習得に関する
ジレンマの克服

課題 2 実習で遭遇する倫理的問題を含んだ事例についての指導
のあり方

---15 分間休憩---

15 : 45～16 : 45 全体討議

16 : 45～17 : 00 まとめ

運営担当者：日本看護系大学協議会看護学教育研究倫理検討委員

各ブロックの参加校および担当委員・開催日時・場所

	担当委員	開催日時・場所	参加校
東日本ブロック	小泉美佐子 (群馬大学) 松田たみ子 (群馬大学) 大島弓子 (神奈川県立保健福祉大学) 長谷川雅美 (金沢大学)	平成 21 年 8 月 31 日 (月) かながわ県民活動サポートセンター (横浜市)	北海道大学、山梨大学、岐阜大学、群馬大学、宮城大学、三重県立看護大学、神奈川県立保健福祉大学、埼玉県立大学、新潟県立看護大学、大阪府立大学、石川県立看護大学、横浜市立大学、弘前医療福祉大学、聖隷クリスティー大学、日本赤十字看護大学、西武文理大学、東海大学、弘前学院大学、東京有明医療大学、山形県立保健医療大学、藤田保健衛生大学、東京医療保健大学、東都医療大学、昭和大学、茨城キリスト教大学、埼玉医科大学、藍野大学 (計 27 校)
東日本ブロック	小泉美佐子 (群馬大学) 松田たみ子 (群馬大学) 大島弓子 (神奈川県立保健福祉大学)	平成 21 年 9 月 4 日 (金) 台東区生涯学習センター (東京都台東区)	山形大学、岐阜大学、島根大学、筑波大学、福井大学、愛知県立大学、埼玉県立大学、新潟県立看護大学、福井県立大学、群馬県立県民健康科学大学、横浜市立大学、東京慈恵会医科大学、佐久大学、独協医科大学、北海道文教大学、関西福祉大学、東北福祉大学、自治医科大学、群馬パース大学、桐生大学、聖母大学、国立看護大学 (計 22 校)
西日本ブロック	前田ひとみ (熊本大学) 櫻庭繁 (京都大学) 大島弓子 (神奈川県立保健福祉大学)	平成 21 年 8 月 28 日 (金) 九州大学 (福岡市)	大阪大学、香川大学、宮崎大学、山口大学、大分大学、鹿児島大学、佐賀大学、愛媛県立医療技術大学、沖縄県立看護大学、長崎県立大学シーボルト校、石川県立看護大学、広島都市学園大学、宇部フロンティア大学、福岡大学、神戸常盤大学、甲南女子大学、産業医科大学、日本赤十字広島看護大学、九州大学 (計 19 校)
西日本ブロック	前田ひとみ (熊本大学) 櫻庭繁 (京都大学) 横尾京子 (広島大学) 國生拓子 (広島大学)	平成 21 年 8 月 30 日 (日) 九州大学 (福岡市)	愛媛大学、香川大学、鳥取大学、岡山県立大学、福岡県立大学、和歌山県立医科大学、県立広島大学、沖縄県立看護大学、活水女子大学、鹿児島純心女子大学、九州大学 (計 11 校)

グループ討議

課題 1 学生が提供する看護の安全性と看護技術の習得に関するジレンマの克服

グループ討議

課題 2 実習で遭遇する倫理的問題を含んだ事例についての指導のあり方

事例 1

学生より終末期で亡くなったA氏との関わりを振り返りたいとの申し出があった事例

A氏 60代 男性

妻子あるが別居中で音信不通。姉・弟の面会は3～4回/Wあり。急性骨髄性白血病に対し化学療法施行するが、効果なく、骨髄抑制期に肺炎となり全身状態が悪化し、急性腎不全・多臓器不全を併発している。

重症モニター、酸素リザーバーマスク装着中で呼吸状態の調整をしている。水分 700ml/日の制限あり、口渇強く飲水の希望が頻回である。

水分摂取時、嚥下がうまく出来ずむせている状態であり、吸引し、呼吸回復も確認しながらケアをする状況であるため、1回訪室すると10分程度飲水ケアにかかる。私は実習7日目で、申し送り中もナースが「行きます」と返事しているが、ナースコールを押しつづけていた。

その日の担当看護師と一緒に訪室したが、「はい。ナースコール1回押せばちゃんと来ますよ」と言った看護師の言葉に対し、Aさんは目を伏せたまま、「あ一言えばこう言う・・・」と答えた。私は看護師が去った後、どう対応してよいか分からず無言のままでベッドメイキングをしていると、Aさんは「どいつもこいつも・・・」とぼそぼそと言っているのが聞こえた。私は心が痛み、そそくさと部屋を出た。

予断を許さない終末期の受持ち患者であったが、実習終了日に急変して死亡という結果を迎えたことで、十分な対処をしなかった後悔に苛まれ、この時の状況をふり返り、どう関わるべきだったかを考えたかった。

事例2

患者から「医師や看護師には黙っていておいて欲しい」との前置きで重大な訴えを聞かされた学生への対応

3年生の精神看護実習、学生はAさん 20代女性で抑うつ状態が続いている患者を受け持った。受持ちを開始して1週間が立った頃、Aさんから「死にたい気持ちになることがある」と希死念慮を明かされた。「でも、医師や看護師には黙っていてね」と依頼された。学生はAさんの自殺企図のことが心配になり、指導教員に相談しようと思ったが、そのとき不在であったため、慌ててその日のAさんの担当看護師に報告した。その日の実習終了時に学生から教員に報告があり、「医師や看護師には話さないで欲しいと言われるのに看護師に話をしてしまった。Aさんの信頼を裏切ることをしてしまって・・・」と悩んでいる様子である。

事例3

基礎看護学実習で学生が看護師のケアに疑問を持った事例

基礎看護学実習で高齢患者を受け持った。患者が「オムツは腰がいつもしけっぽい感じがして嫌だな」と言うのを聞いて、学生は、少しでも患者の不快が少なくなるようなオムツでの排泄ケアができないかと考え、排泄後おむつ交換時には、温湯で絞ったタオルを用いて清拭をしっかりとするという計画を立ててケアを行っていた。

看護師と一緒におむつ交換を行った際、学生が新しいオムツを準備して交換しようとしたら、「外側のオムツは汚れていないから内パットだけ交換すればよい」と、担当看護師に言われ、その通りにした。しかし学生は、オムツが交換して2日目になっていたこと、やや湿っぽいこと、蒸れたような臭いがすることが気になって、外のオムツの交換を行ったほうが患者にとって良いと思ったが言えなかった、とカンファレンスで話した。

<グループワーク 討議のポイント>

1. どのような倫理的問題があるか
2. どのように学生へ指導・教育していったらよいか
3. 臨床指導者との調整又は臨床への対応